
 紹 介

「キャストパーシャルデンチャー特論」の3年間を顧みて

中 澤 孝 敏

明倫短期大学 歯科技工士学科

1. はじめに

臨床技工プロ講座が開講して3年目、金井臨床教授が担当する「誰でも簡単にわかる・できるキャストパーシャル」はキャストパーシャルを作るうえでのデジタル化された、構造設計のスタンダードを中心に理解させ、噛めるキャストパーシャルデンチャーを製作することを理念として教授された。

金属床義歯の製作において従来は大変時間を要するものであったが、日々研究を重ね大改革され、リン酸塩系急速加熱埋没材「オプティベスト・アバンティ」(デグサ社)の開発と真空加圧鑄造機「スーパーキャストコム」(デンケン)の登場により短時間で精密鑄造が可能になった。

設計、ワックスアップ、キャスト、研磨までをできるかぎり数値化して表記するとともに、正確に適合し口腔内のルールに基づき調和したキャストパーシャルデンチャーで基本模型を使い、金井先生自ら日常の臨床や実技研修会で得たデータと経験をもとに受講生に伝授された。

2. 講座内容

1) 第1回(平成17年)

上顎模型(5 6 7|5 6 7欠損)を使用した。ベゴ社のフラスコを用いシリコーン印象材(デグフォーム105g)を流して耐火模型(オプティベストアバンティ150g)を製作した。ワックスアップは強度を得るために3枚のステップルワックスを貼り合わせる方法を紹介した。外埋没はプラスチックリングを使用し、スノーホワイト粉500g、液105mlで埋没した。20分後リングファーマスに900℃ 20分、980℃で40分加熱後、デンケンのスーパーキャストコムで鑄造した。金属の熔融状態を目視で確認でき、ビギナーでも操作は簡単な機械であった。研磨は時間が足りなく宿題となった。

2) 第2回(平成18年)

下顎模型(4 5 6 7欠損)を使用した。

第一回目と同様の方法で行うが、ステップルワックスの貼り方が上顎と異なる点を伝授した。スプルーイングのワックスも上顎のR32と違い、R40を使用した。特に研磨の要点を指導された。

3) 第3回(平成19年)

上顎模型 フルプレート、下顎模型4 5 6 7欠損を使用した。

本年から4コマ増え、時間にゆとりが出たため、上下2床を製作した。

3. 受講生からのアンケートについて

少人数制の講義の中で、質問に対して、一つひとつていねいに納得がいくまで説明を受け解り易かったこと、また、実習の進行状況もちょうど良いスピードで、よく考えながらの作業ができ、理解もし易く、解り易かったという感想が寄せられた。

また、金井先生が講義中のスライドのデータなどをCDに保存して、各受講生にプレゼントされたので、反復して確認ができるとともに復習がし易かった。

また、消化不良が起きないように、噛み砕いてやさしく実習のポイントを説明された。

4. まとめ

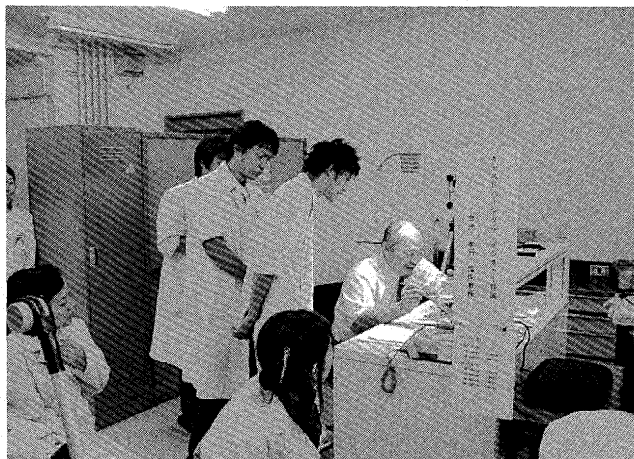
3回の臨床技工プロ講座キャストパーシャルデンチャー特論を通して、未来の歯科技工界を築く受講生のために「自信をもって患者さんのニーズに応えられ喜んでいただける技工物を作ることができる教育の場でありたい」という強い意志のもとで、共に学び、共に努力をしたいと切願している金井先生は群馬県技工士会会長や衛生士学校での講義などお忙しい中、本学でのプロ講座において、意欲的にしかも情熱ある講義・実習のお姿に驚嘆するばかりでした。

5. おわりに

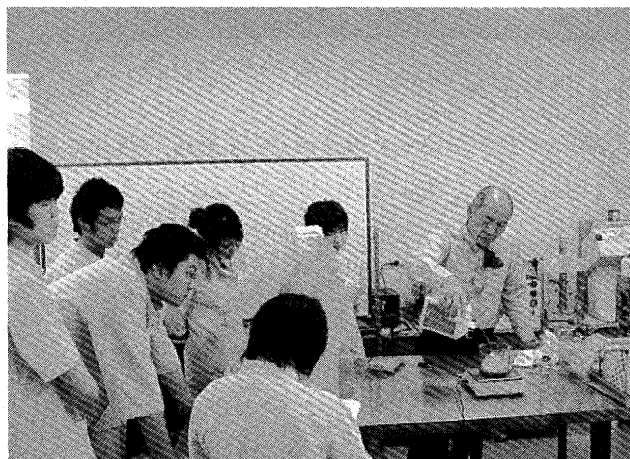
金井先生はキャストパーシャルデンチャーをいかに効率よく、正確に、速く、簡単に、完成させるこ

とができるかを念頭においているからこそ金属床義歯の改革ができたことと思う。

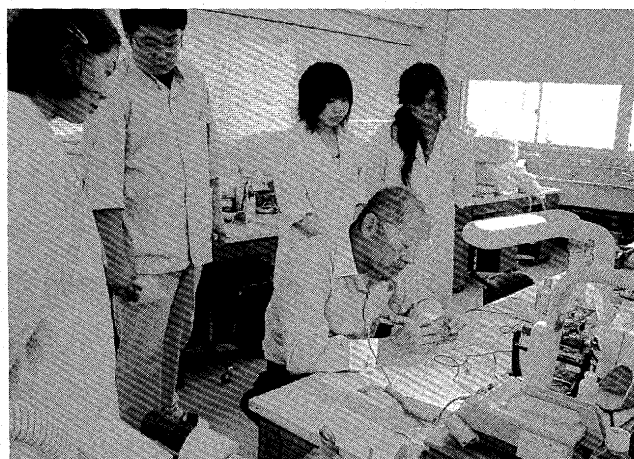
そこには数多くの失敗もある中で、一つの信念が通じた証しで、驕りもなく、常に謙虚で『患者中心の医療』を考えていることが素晴らしい。



平成17年 第1回 臨床プロ講座デザインの指導



平成18年 第2回 臨床プロ講座複印象の指導



平成19年 第3回 臨床プロ講座らくらく研磨の指導